

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

パラスポーツを軸とした地域活性化プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

長野市

3 地域再生計画の区域

長野市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

長野市は1998年にオリンピック冬季競技大会とパラリンピック冬季競技大会の両大会を開催している。障がい者スポーツに関しては、長野パラリンピック冬季競技大会を契機に、長野市障害者スポーツ協会が設立され、普及・発展に取り組まれており、本市もその活動を支援してきた。

また、長野冬季オリンピック・パラリンピックの記念大会として、長野マラソン及び長野車いすマラソンを開催するなど、パラスポーツ（障がい者スポーツ）の先進的な地域を目指して取り組んできている。

長野市の人口は2000年にピークの387,911人を迎え、2007年以降は自然増減、社会増減ともに減少基調をとる本格的な人口減少局面に突入しており、2017年4月現在380,473人の人口が2045年には30万人を割り込むと予想されている。また、少子高齢化という人口構造の大きな変化を受け、2045年には、65歳以上の高齢者人口が約4割を占めると予想されている。

2014年9月には、「人口減少に挑む長野市長声明」として、「定住人口の増加」、「交流人口の増加」、「特色ある地域づくり」を積極的に推進し、人口減少に挑み、元気と活力があふれるまちを目指す強い決意を表明し、各種施策に取り組んでいる。

交流人口の面では、善光寺御開帳が開催された2009年と2015年に観光入込客数の大幅な増加が見られた。また、大河ドラマ真田丸の影響で真田10万石の城下町である松代地区が大きく注目を浴び、2016年には観光入込客数の増加も見られたが、このような大きな要因の無い平時の観光入込客数は、1,002万人（2010年～2014年平均）程となっている。「長野市まち、ひと、しごと総合戦略」では、この平時の観光入込客数を上げることを課題と

している。

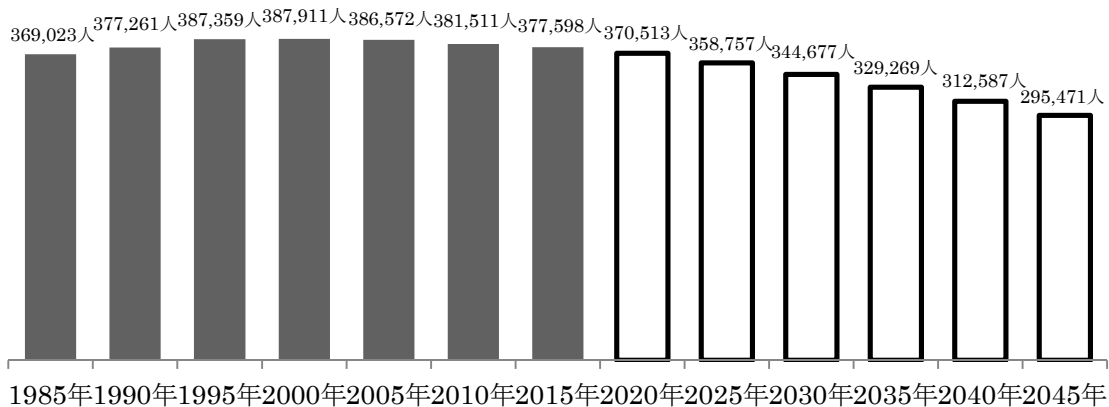


図1. 長野市の総人口推移と予測

(2015年までは「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に準拠した推計)

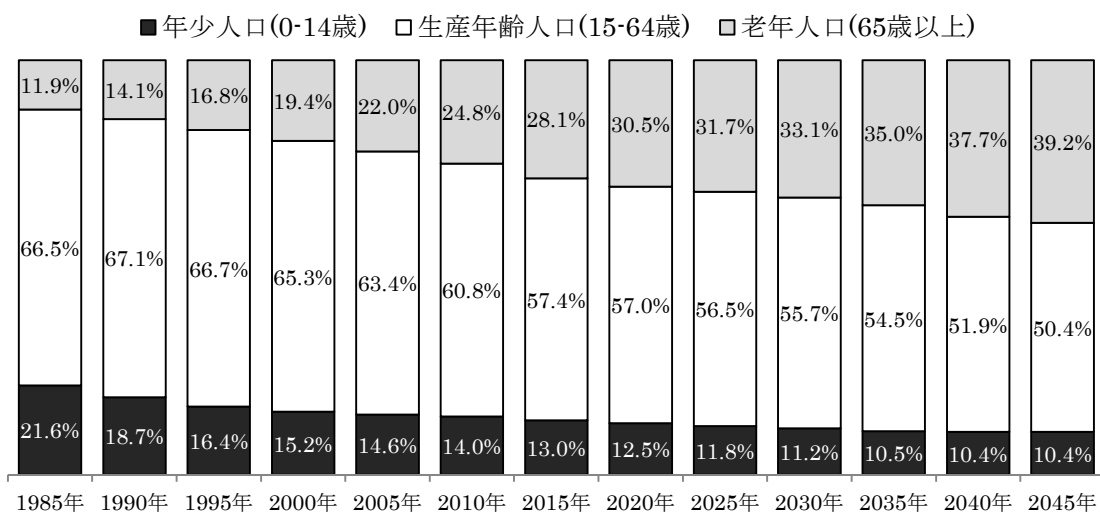


図2. 長野市の年齢3区分別人口の変化と予測

(2015年までは「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に準拠した推計)

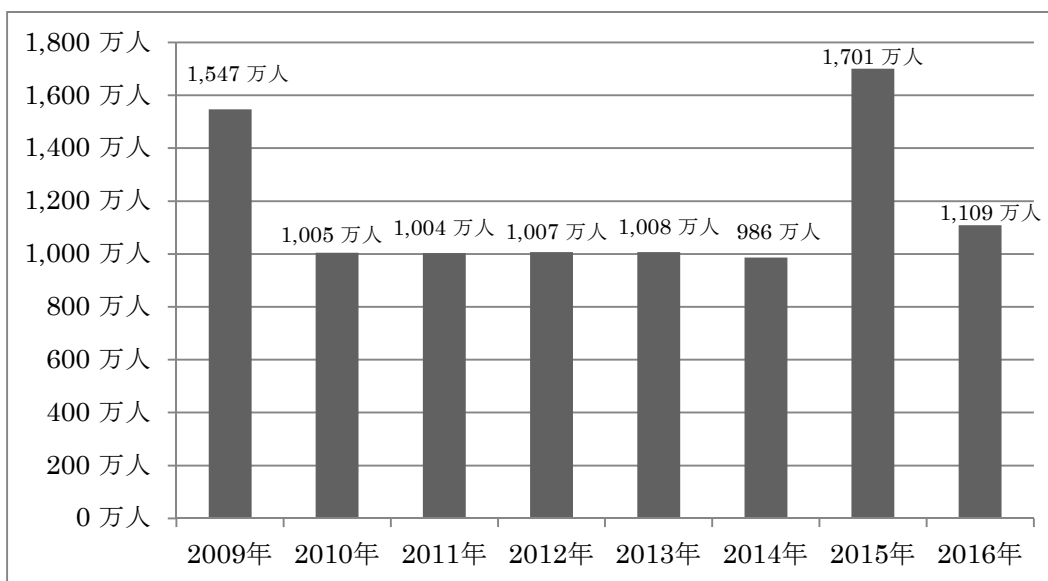


図3. 長野市の観光入込客数の推移

4-2 地域の課題

善光寺御開帳などの大きな要因の無い平時にも長野市が注目を集め、交流人口の底上げを図るためには、今まで以上に地域の魅力を磨き上げ、特色のある地域づくりを進める必要がある。しかし、長野市の大きな特色でもあるパラスポーツの取組については、長野パラリンピック冬季競技大会から20年近くが経ち、今の子供たちは、伝え聞く話の中でしか当時を知らず、各種団体が執り行うパラスポーツも一部の障がい者の参加に留まっている。また、リオデジャネイロパラリンピック競技大会における日本選手の活躍などにより、パラリンピックやパラスポーツへの注目は一時的に高まっているが、本市にあっては、長野パラリンピック競技冬季大会開催の時に見られたような観戦意欲や熱気は低下しており、その一因として観戦機会や体験機会の不足が挙げられる。そのため、市の有するオリンピック施設を有効活用し、観戦等の機会を生み出すことにより市内外の人々にパラスポーツの魅力を広げ、地域の魅力を強化する必要がある。

また、2018年には平昌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会、2020年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるが、これを契機に、オリンピック・パラリンピック開催都市としてのレガシーや誇りを次世代につなげていく必要がある。そのため、オリンピック施設の更なる活用を図り、パラスポーツの一層の普及を図るとともに、健常者を交えてパラスポーツの理解を広め、障がいの有無によって分け隔てられることなく、だれもが自分らしく安心して暮らせる社会の実現に向けて取組み、特色のある地域づくりを推進していく必要がある。

4-3 目標

東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、スポーツへの注目度が高まっている中で、長野冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の記憶をつなぎ、アジアで行われる平昌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会へのエールを送るとともに東京オリンピック・パラリンピック競技大会の応援機運醸成を図る。

スポーツの視点からパラスポーツを振興することで、パラスポーツ愛好者を増やし、人や地域が育つことで、パラスポーツ及び障がい者に理解のある社会の実現を目指し、「特色ある地域づくり」につなげる。また、オリンピック・パラリンピック競技施設を有するという本市の強みを生かし、各種大会の誘致、開催を通じて、「交流人口の増加」を図ることで、地域経済を活性化させる。

【数値目標】

事業	パラスポーツを軸とした地域活性化プロジェクト		年月
KPI	NAGANOパラ・スポーツデー参加者数	地域再生を図るために行うパラ・スポーツイベント※の市外参加者数	
申請時	—	—	H29.9
初年度	200人	120人	H30.3
2年目	250人	150人	H31.3
3年目	300人	180人	H32.3

※「地域再生を図るために行うパラ・スポーツイベント」とは、NAGANOパラ・スポーツデーのほかに、パラアイスホッケー国際試合、長野車いすマラソン、スポーツフェスティバルなどの支援措置によらない独自の取組を含む。

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

年齢や性別、障がいの有無に関わらず、相互に協力し合いながらパラスポーツを楽しめる環境づくりを目指して、パラスポーツを気軽に見たり、体験したりできるイベントを新たに開催する。さらにパラスポーツの国際試合を誘致して大会運営をサポートすることで、ハイレベルの競技を観戦できたりする機会を増やす。また毎年実施して認知度の高い「NAGANOスポーツフェスティバル」において、パラスポーツに関する体験会等を新たに実施する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に係る寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：パラスポーツを軸とした地域活性化プロジェクト

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(事業の目的)

市民や次世代を担う子どもたちにパラスポーツへの理解を深めてもらい、生涯スポーツや競技スポーツとしての定着や、スポーツを通じて、障がいの有無によって分け隔てられることなく、だれもが自分らしく安心して暮らせる社会の実現を目指し、「特色のある地域づくり」につなげる。

また、パラスポーツを通じた新たな層の「交流人口の増加」を図ると共に、障がいの有無に関わらず暮らしやすいまちであると認識されることにより、将来的には移住・定住にも繋げていく。

併せて、オリンピック・パラリンピック競技施設の有効活用を図り、各種大会の誘致、開催などの面からも「交流人口の増加」に繋げ、来訪者の消費活動による地域経済の活性化を図っていくことで、地方創生の実現を目指す。

(事業の内容)

・NAGANOパラ・スポーツデーの開催

市内の比較的大型で十分な駐車場や観客席の設備を有し、バリアフリー化が図られている施設を会場として、「NAGANOパラ・スポーツデー」を年間1回以上開催する。

当日は障がい者スポーツ関連団体、各種競技団体等と連携し、東京パラリンピック競技大会における競技実施種目のうち数種目を選定して、エキシビジョンマッチや健常者と障がい者を交えた体験会等を開催する。

また障がい者でもプレー可能なレクリエーションスポーツ等の体験コーナーを開設するほか、アトラクションや障がい者施設による物販等も盛り込み、障がい者と健常者がともに楽しめ、相互理解を深めることができる機会を創出する。このイベントをきっかけとして、地域や地域住民がパラスポーツへの理解を示すように育っていくことで、障がいの有無によって分け隔てられることなく、だれもが自分らしく安心して暮らせる

社会の実現に向けて、オリンピック・パラリンピック開催都市としてのレガシーや誇りを次世代につなげていく。

また開催に当たってはパラリンピアンをはじめ、有名スポーツ選手等にゲストとして参加を要請するほか、市内の全小中学校、養護・特別支援学校、各種障がい者支援施設や総合型地域スポーツクラブ等に情報提供することに併せ、地域密着型プロスポーツチームと連携した情報発信やSNSの活用、報道機関等とも協力することで、広く告知に努め、全国的に話題性を高めて、市内外からさまざまな層の人々が集まる交流の場とすることを目指す。

→各年度の事業の内容

NAGANOパラ・スポーツデーの開催

初年度) 障がい者スポーツ関連団体、各種競技団体等と連携し、東京パラリンピック競技大会における競技実施種目のうち数種目を選定して、エキシビジョンマッチや健常者と障がい者を交えた体験会等を開催する。また障がい者でもプレー可能なレクリエーションスポーツ等の体験コーナーを開設するほか、アトラクションや障がい者施設による物販等も盛り込み、障がい者と健常者がともに楽しむ、相互理解を深めることができる機会を創出する。

パラリンピアンをはじめ、有名スポーツ選手等にゲストとして参加を要請するほか、市内の全小中学校、養護・特別支援学校、各種障がい者支援施設や総合型地域スポーツクラブ等に情報提供することに併せ、地域密着型プロスポーツチームと連携した情報発信やSNSの活用、報道機関等とも協力することで、広く告知に努める。

2年目) 体験コーナーの充実化を図り、市外からのイベント来場者や有名スポーツ選手などのゲストの参加者を増やし、より多くの人を巻き込める事業にしていく。

また、パラスポーツに関する講演会を開催する。

初年度に続き、情報提供や発信に努め、イベントの認知度を高める。

3年目) 体験コーナーの充実化を図り、市外からのイベント来場者や有名スポーツ選手などのゲストの参加者を増やし、より多く

の人を巻き込める事業にするとともに、地域再生計画終了後にも継続できるように、基盤を整える。

前年度に続き、情報提供や発信に努め、イベントの認知度を高める。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、「魅力を高め、ひとを惹きつける、ふるさと「ながの」の実現～移住・定住・交流の促進～」を定め、具体的取組として子どもたちにオリンピックレガシーを継承し、地域への愛着を高めるためのスポーツイベントへの参加支援に取り組むこととしており、数値目標として、年齢階級 15-34 歳の社会増減（平成 32 年に移動均衡）、観光入込客数（H26：986 万人／年→1,200 万人／年）としている。

本事業は、スポーツが持つ感動や喜びで地域への愛着を醸成するとともに、賑わいや活力を創出することにより、当該戦略の実現に直接寄与するものである。

また、パラスポーツのイベントやハイレベルな大会の誘致は、「交流人口の増加」につながるほか、障がいの有無によって分け隔てられることなく、だれもが自分らしく安心して暮らせるまちであると「特色のある地域づくり」が認識されることにより、移住・定住にも繋がることから、目標の達成に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

事業	パラスポーツを軸とした地域活性化プロジェクト		年 月
K P I	NAGANOパラ・スポーツデー参加者数	地域再生を図るために行うパラ・スポーツイベント※の市外参加者数	
申請時	—	—	H29.9
初年度	200 人	120 人	H30.3
2 年目	250 人	150 人	H31.3
3 年目	300 人	180 人	H32.3

※「地域再生を図るために行うパラ・スポーツイベント」とは、NAGANOパラ・スポーツデーのほかに、パラアイスホッケー国際試合、長野車いすマラソン、スポーツフェスティバルなどの支援措置によらない独自の取組を含む。

(6) 事業費 (単位：千円)

年度	H29	H30	H31	計	
事業費計	878	878	878	2,634	
区分	報償費	60	60	60	180
	需用費	164	164	164	492
	役務費	30	30	30	90
	委託料	280	280	280	840
	使用料	20	20	20	60
	備品購入費	324	324	324	972

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

	H29	H30	H31	計
京浜急行電鉄株式会社	300	—	—	300
計	300	—	—	300

(8) 事業の評価の方法 (P D C Aサイクル)

(評価の手法)

事業のK P Iである「NAGANOパラ・スポーツデー参加者数」と「地域再生を図るために行うパラ・スポーツイベントの市外参加者数」について、実績値を公表する。また、本市の外部有識者「長野市スポーツ推進審議会」により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

(評価の時期・内容)

毎年度6月に外部有識者「長野市スポーツ推進審議会(学識経験者・一般公募・行政機関の職員)」による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに長野市公式WEBサイト上で公表する。

(9) 事業期間

平成29年11月～平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) パラアイスホッケー国際試合開催支援（平成 29 年度）

事業概要：長野オリンピック・パラリンピック 20 周年記念事業の一環として、世界ランキングの 10 位以内のチームを招待し、競技の普及を目的として開催される「2018 ジャパン パラアイスホッケーチャンピオンシップ」の開催を支援する。

実施主体：一般社団法人日本パラアイスホッケー協会

事業期間：平成 29 年度冬季

(2) 長野車いすマラソン開催支援（継続開催）

事業概要：長野パラリンピック冬季競技大会の理念を継承し、障がいのあるなしにかかわらずスポーツを愛する者同士が協力しあい、障がい者のスポーツ振興に留まらず、更なるノーマライゼーションの推進と障がい者の社会参加の促進に寄与することを目指して開催される長野車いすマラソンの開催を支援する。

事業主体：長野車いすマラソン大会実行委員会（長野市を含む構成団体）

事業期間：平成 16 年度～

(3) スポーツフェスティバル（継続開催）

事業概要：生涯スポーツの動機づけを目的として、多様なスポーツを体験する機会を市民に提供するとともに、各地域に根ざした総合型地域スポーツクラブ、地域密着型プロスポーツチーム、地元企業、行政機関が一体となり地域の特色（人・風土・施設等）を活かした多様性のあるスポーツ環境づくりのきっかけの場とするため、「NAGANO スポーツフェスティバル」を開催する。また同フェスティバルにおいて、パラスポーツの普及、及び健常者のパラスポーツへの理解の促進と一層のノーマライゼーションの推進を目指して、各種パラスポーツ体験会等を開催する。

事業主体：NAGANO スポーツフェスティバル実行委員会（長野市

を含む構成団体)
事業期間：昭和 49 年度～
(パラスポーツとの連携は平成 29 年度から)

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

事業の K P I である「NAGANOパラ・スポーツデー参加者数」と「地域再生を図るために行うパラ・スポーツイベントの市外参加者数」について、実績値を公表する。また、本市の外部有識者「長野市スポーツ推進審議会」により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

毎年度 6 月に外部有識者「長野市スポーツ推進審議会（学識経験者・一般公募・行政機関の職員）」による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに長野市公式 W E B サイト上で公表する。